

正会員
京都大学大学院工学研究科
都市社会工学専攻 助教授
木村 亮
KIMURA Makoto



マサイに会いに行きますか？

アフリカで有名な部族といえば、マサイ族である。3年ほど前にヨーグルト風飲料『マサイの戦士』が出現し、都会を歩く不似合いな姿がコマーシャルで放映された。旅行番組で、数人が競って飛び跳ねる、赤い布をまとった姿を一度は見られたことがあると思う。今回は私が見たマサイ族の話である。

マサイ族は、ケニア南西部からタンザニア北西部にかけて居住している牧畜民である。彼らには国境の意識はなく、牛に食べさせる牧草を求め自由に移動する。「地上のすべての牛は神からマサイに与えられた」と信じており、他の部族が飼っている牛を略奪する襲撃は東アフリカ一帯で恐れられていた。

8年ほど前から毎年訪ねているマサイの家族が、ナイロビから50km離れたところに住んでいる。大学づくりのプロジェクトで知り合った喜田 清専門家（現在、高松で浪人中）が連れて行ってくれた。「先生、マサイに会いに行きますか？」断る理由などなく、すぐ出発。舗装した本道から未舗装の道なき道を10kmほど入ったところに、サマンテ一家は住んでいる。周りには何もない。家は簡単な木を骨格に、牧畜の糞を塗りつけた家である。



マサイ族のナチュラルハウス



山羊を解体する人々（バケツのそばの2人に注目）

ケニア人の大好物

サマンテ一家の話をする前に、一般的なケニア人の好物を紹介する。『ニャマ・チョマ』という焼肉である。特に山羊肉のあばら骨の部分を好む。味付けは塩だけ。肉の一番美味しいところは、骨の周りというが、なかなかいける。山羊はくさいと皆いうが、私はくさいと思ったことがない。付いてる鼻の性能にもよるが。

ケニア人は山羊を自分たちで解体して、残すところなく食す。野原で『ニャマ・チョマ』が始まると、内臓の中を洗うのはバケツの水だけ。上の写真は山羊の解体風景であるが、とても手際よい。驚くことに、小腸と大腸はあまり洗わずに食べるほうが、匂いがよく美味しいという。バケツの水は黄緑色。大腸などはしごくようにして、中のものを出す。「綺麗に洗ってくれ！」は日本人の論理である。

この後私がゲストでご馳走になった。まず私が食べないとパーティーは始まらない。小腸も大腸もきれいに焼けて並んでいる。大腸を一口かじる。なんともいえぬ臭い。人間、苦しくて飲み込もうと思っても、どこかで飲み込んではいけないよという信号が出るらしく、喉が極端



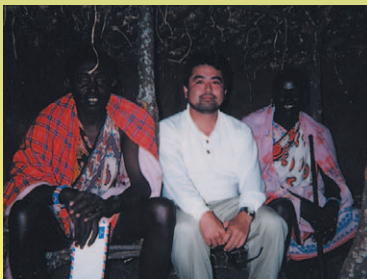
に狭くなる。ケニア人ギャラリーの見つめる 50 個の目。適応性の高い私の胃袋に、糞詰め大腸は受け入れられた。めでたし。

ハエとマジワラ

マサイの家はウンチの家である。周りは家畜だらけでくさいが、壁は乾燥しているので全くくさくない。家は入り口からカタツムリ状態で、屋根の高さは 1.3m 程度。屈まないと入れない。入り口が曲がっているのと、窓がないので、中は真っ暗。少し経つと目が慣れるが、窓のない中で焚き火をするので、目が開けていられない。家全体をいぶすことによって、害虫が入ってくるのを防いでいるのか。

『マジワラ』飲むか？ 細長いひょうたんを取り出し、シェイクする。ゴボゴボという音とともに、コップに注がれるマサイの山羊のヨーグルト。マジが水、マジワがミルク、マジワラがヨーグルト、水の 3 段活用だ！ 差し出されたマジワラは早く飲まないとだめである。コップのふちにハエがたかり、油断すると暗いのでハエをトッピングした状態でいただくことになる。スモーク風味のヨーグルト。ひょうたんの中に菌がいて、発酵するらしいが、見た目には腐っているとしか思えない。あまり早く飲みすぎると、お代わりを入れてくれるので注意。私は普段の彼らの食事の山羊のミルク紅茶で口直し。

客人へはそれなりのご馳走を出す。私へのご馳走は、山羊の喉を切って溜まった鮮血の血だまりに直接口をつけて飲めという。湯気が出て



目が慣れるまで大変です

いた。遠慮した。みかん大の山羊の腎臓を生でかじれという。2 個しかないのをあげるんだよという顔。遠慮し



毎日がアウトドア生活

た。内臓を炒め、血をかけてひと煮たち。内臓のマサイ炒めは、美味しくいただく。

僕のサングラスをかけて「夜はこれだめだな」と言い、「俺たち毎日アウトドアだ！」と笑い、ねじの取れた腕時計をくれた（当然僕のと物々交換）サマンテ君、今も君の時計はいつもマサイ時間をさしているよ。

俺 2 匹だけど

マサイの男子は赤い布の服を着て、細い杖を手に持って立つ。この 2 点セットは手放せない。どこにでも唾を吐くので、すばやく避ける技術が必要だ。山岳地帯の谷あいであつた写真のマサイ、少し太ったサマンテ君と違ってとても精悍であつた。喜田専門家が、「この人は日本で非常に有名な先生だ」と言った。マサイの戦士は「じゃあ、ライオン何匹殺した？ 僕 2 匹だけど」と平然と応えた。「彼はライオンを殺したことがない」との返事に「たいしたことないじゃん」と目が笑っていた。アフリカ奥深し。



これぞマサイの戦士